

経済指標からみる米国経済の底固さ

ポイント① 底固さが確認できた米経済指標

7月の米CPI（消費者物価指数）は、前月比で横ばい、前年同月比8.5%上昇と6月の9.1%上昇からは減速し、1年以上続いているインフレが落ち着き始めている様子が見られました。また、米企業の決算発表を受けて企業業績が想定ほど悪くはないことも判明しました。7月の米鉱工業生産指数は、自動車・部品などの伸びが全体を押し上げ、前月比0.6%上昇、7月の米小売売上高は、前月比横ばいとなったものの、ガソリンや自動車等を除くコア売上高は増加し、生産・個人消費ともに底固さが示唆されました。但し、7月の米中古住宅販売件数は481万件、前月比▲5.9%と、6か月連続で減少、住宅市場は減速傾向にあります。

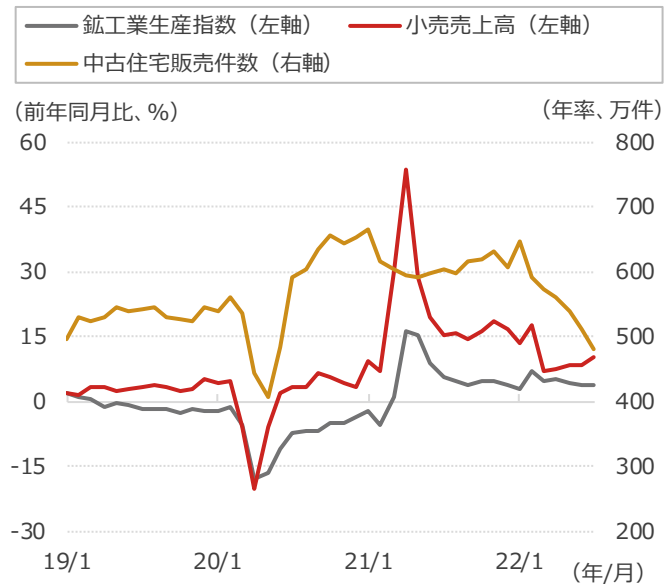
ポイント② 米景気後退への警戒が和らぐ

米10年債利回りは、景気後退への警戒で8月初めに2.6%割れまで低下しましたが、警戒が和らいだことで、3%近くまで戻ってきました。一方、S&P500種株価指数は、6月16日に安値をつけ、その後上昇に転じ、8月以降も上昇基調で推移しています。年初の高値から、安値までの下げ幅に対し、概ね半値戻しの水準にあります。インフレが落ち着きをみせ、市場予想を上回る米企業の決算が後押しした展開となりました。

ポイント③ 米景気の底固さが支える米金融市場

インフレの落ち着きは消費マインドにも好材料となり、8月の米ミシガン大学消費者マインド指数の速報値は改善されました。また、企業マインドである8月の米フィラデルフィア連銀製造業景況指数にも改善が見られました。米金融市場は、インフレ動向に注視しつつ、当面は底固い景気動向や企業業績に支えられた展開が予想されます。

米国の鉱工業生産指数、小売売上高、中古住宅販売件数



期間：2019年1月～2022年7月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米国の株式と債券市場



期間：2021年12月31日～2022年8月18日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

- 重要イベント**
- 8月26日 米PCE（個人消費支出）コアデフレーター（7月）
 - 8月30日 米コンファレンスボード消費者信頼感指数（8月）